

大分大学医学部医学科4年 鎌田有佳理さん

令和3年度研究室配属発表会にてセッション賞を受賞

研究テーマ「セマグルチド皮下注による代謝マーカーおよび体組成変化の検討」

(指導医:尾関良則病院特任助教)

この度私は、「セマグルチド皮下注による代謝マーカーおよび体組成変化の検討」というテーマのもと、研究ならびに発表を行いました。電子カルテを扱うのは初めてのことで、戸惑うことも多くありましたが、先生方の手厚いご指導のおかげで研究を行うことができました。

今回扱ったセマグルチド皮下注は、本邦での使用が承認されてから1年程の、糖尿病治療薬としては新しい薬であり、その薬の実臨床での効果を評価することができたのは大変有意義な経験でした。今後、症例の蓄積や評価項目の拡充を行うことで、患者さんに合わせて、より適した薬を処方出来るようになるのだと思うと、研究結果が患者さんに還元されていく過程が見えるようで、それが臨床研究のやりがいにつながっているのではないかと感じました。

また、発表に関しても、準備段階では見やすいスライドのレイアウトや作り方、伝わりやすい発表の仕方などを学び、質疑応答では、より深い考察に繋がる視点を提供して頂き、大変勉強になりました。

改めて、興味を持っていた内分泌代謝・膠原病・腎臓内科講座で配属させていただき、研究ができたことを大変嬉しく思います。この貴重な経験で学んだことを忘れず、今後も精進していきたいです。最後になりましたが、丁寧にご指導くださった正木先生、尾関先生をはじめ、内分泌代謝・膠原病・腎臓内科講座の先生方、事務の方々に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

● 指導医 尾関良則先生のコメント

糖尿病や肥満症患者において脂肪量や筋肉量の変化は治療効果を評価する上で重要であり、これまでも当講座では肥満症治療前後における体組成変化について様々な報告を行っています。今回の研究室配属では糖尿病治療薬であるセマグルチド注射投与前後の体組成変化について解析を行いました。日本で使用可能となって1年余りの比較的新しい薬剤で、効果に関しては未知の部分が多いこともあり、小さなことでも何か新しい発見が出来ればと考え研究を開始しました。研究室配属を行う上で、コロナ禍での制約が多い状況でしたが、鎌田さんが熱心に取り組んでくれ、限られた期間の中で十分な検討を行うことができました。既報でも示されている血糖改善・脂肪減少に加えて、これまでセマグルチド注では報告されていない「投与後に筋肉が維持されている」という結果を発見することができました。

今回の研究室配属を通して臨床研究の醍醐味を少しでも感じてもらえたら幸いです。十分な指導ができていなかったかと思いますが、ありがとうございました。

● HIRO'S EYE

鎌田有佳理さん、セッション賞受賞おめでとう！

内分泌糖尿病内科を受診した高度肥満症患者さんを対象に、新しいGLP-1 受容体作動薬セマグルチドを用いた時の体組成の変化を検討した研究でした。体重の減量を行うと、脂肪だけでなく筋肉など大切な部分も減少してしまうのは避けられないと考えられています。今回、糖尿病治療薬で体重減量効果も期待されているセマグルチドを用いたところ、耐糖能の改善、脂肪量の減少に加えて、筋肉量は減少しないで減量ができていることが示されました。体重だけでは見えていない体組成に着目した本研究は非常に意味があります。発表会での質疑応答でも、しっかりと文献なども勉強してのぞんだ結果が出ていて、頼もしいやりとりでした。今回の経験を生かして、今後もさらにながらんでください。

(柴田洋孝)

